1. インデクセーションの限界

江　見　康　一

インデクセーションとは、競争市場を中心として生じる物価高騰に対し、主として貨幣的契約制度がこうむる経済の実態からの乖離を、前者の変化に対応して弾力的に是正するための方式である。したがってインデクセーションは、インフレの悪影響を中立化することであって、インフレそのものの原因にまでさかのぼり、それを除去するという方法ではない。

二次的インフレ抑制効果としてのインデクセーション

インデクセーションはこれを行なっても、他方でインフレそのものに対する政策が同時並行して行なわれねばならないととはいうまでもなく、両者は相互補完的である。インデックスがインフレ抑制にも効果をもったといわれるブラジルにおいても、石油危機がもたらした物価高騰の影響は例外ではなく、1973年に１３％にまで下がっていた生計費指数が１９７４年には再び３０％を超えたのは、インデックスの限界について示唆を与える。いわば世界的市場における需給関係で決まってしまった石油価格の高騰は、インデックス装置の外にあるものである。インデックスは、競争市場における基本的需給関係で生じる価格高騰に対し、もちろん直接介入することはできない。インデックスは、いわばそのアフターケアを通じて、物価がそれ以上に上昇することを抑制し、それ以下に下げる作用として効果をもつものである。

資源配分機能にみる問題点

インデックスが激しいインフレによって生じる社会的不公正を是正し、貯蓄・投資関係の正常化を通じて資源配分の適正化に役立つということについて、基本的には異議を唱えるものではない。ところで競争市場における資源配分は一時的には価格メカニズムを通じて行なわれる。逆にいえば、価格の変動には資源配分機能を果たしているという性格の側面がある。そうだとすれば、イン

フレが沈静化して、数パーセントの物価上昇にまでなった場合にも、その数パーセントに対応してなおインデックスによる修正を必要とするのであろうか、という点である。インデックスが中立化作用をもつという場合、それは、基準時点における諸変数の価値の相対関係がインフレによってひずみを生じないよう維持していくということでもある。これは、インフレが激しい場合には、インデックスによる中立化そのものが資源配分機能に役立つことになるのだが、物価上昇がゆるやかになるにしたがって物価上昇そのものに資源配分機能としての性格が回復するという面が出てくる。したがって、その段階において、なお人為的なインデックスを残すことは、かえって本来の資源配分機能をそこなうことになるのではないか、という点である。そうだとすれば、インデックス装置は、いわゆる"狂乱物価"が持続する状況に対応してその有効性があるのだということになる。

インデックス適用分野の限界

第三に、インデックスは、インフレによって不利益をこうむる側面だけから導入を主張するのでは十分でないということである。インフレによって、同一人が一方で利益を受け、他方で損失をこうむるという状態は容易に想定できる。狂乱物価の前に借金で不動産を取得した人は、その後のインフレ高進で、元本や利子の返済に対する実質的負担が軽減したと考えられる。ところで、他方で預貯金の目減りで損失をこうむっているという場合、後者の損失の補償に対してのみインデックスの導入を主張するのは、公平ではなかろう。インデックスの本来の主旨からいって、当然元利支払いのほうに対してもインデックスが適用されるべきである。換言すれば、預金金利は当然のことながら貸付金利にリンクして金利体系が成り立ち、それによって資源配分機能が果たされている。ただし、保有資産のうち預貯金の割合が高いのは主として零細所得層であり、他方不動産をローンで購入し、減価した価値で利子を支払っているのは富裕階層であるというように、インフレによって利益を受けるグループと損失をこうむるグループとが明らかに異なる場合、前者が「預貯金の目減り補償」を要求するのは、社会的公正という点からは理解できる。ただ一般論としては、インデックスによる預金金利の引上げは、貸出金利の引上げに及び、それは他の債権、とくに長期債権の利回りにも波及するから、このように金利体系としての

斉合性を貫徹することが、経済全体のフレーム・ワークのなかへどのようにはまり込むのかが検討されねばならない。インデックスの適用が、インフレによってはなはだしく不利益をこうむる弱者に対しての救済を主たる政策目的とするのであれば、その限度を設定して部分的に適用することも可能である。しかし、中立化による資源配分機能を中心に置くならば、インデックスをできるだけ広い範囲で適用しなければならない。そうでないと、適用された分野と適用されない分野との間で不公平が生じるからである。しかしながら現実には、広範囲の適用は、政策当局の制御能力を超えることも生じよう。したがって、適用されない分野については、適用された分野との間でなんらかの変換関係を明らかにする必要があるのではないかと考える。

限界はあっても、なお積極的導入が必要

一般にインデックスの限界について論じられているのは、最も基本的にはインデックスがかえってインフレを助長するのではないかということであり、ほかは主として適用上の技術的な問題であり、両者はもちろん密接な関係がある。インフレを加速するかどうかについては、基本的インフレ対策との相互補完関係、インフレの原因に対する実態認識とそれに適合したインデックス導入への一般の理解と協力の程度、政策当局への信頼、などの諸要件によってそれは左右されるであろう。これらの諸要件が満たされれば、あとは適用技術の問題で、それはインデックス自体の作成とその適用における政策当局の実行力にかかっている。

報告者は、上記のさまざまな限界を考慮に入れたうえでも、なおインデックスのもつ社会的公正の維持という効果をとくに重視しているので、すくなくとも社会保障的分野には積極的導入をはかるべきではないかと考えるものである。

江見康一「インデクセーションの本質と限界」『金融ジャーナル』１９７５年２月号より抜萃。